

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第5347308号
(P5347308)

(45) 発行日 平成25年11月20日 (2013.11.20)

(24) 登録日 平成25年8月30日 (2013.8.30)

(51) Int.Cl.

F I

H O 4 N 5/765 (2006.01)

H O 4 N 5/91 L

H O 4 N 5/91 (2006.01)

H O 4 N 5/91 Z

H O 4 N 5/76 (2006.01)

H O 4 N 5/76 A

G 1 1 B 20/10 (2006.01)

G 1 1 B 20/10 3 2 1 Z

G 1 1 B 27/10 (2006.01)

G 1 1 B 27/10 A

請求項の数 6 (全 18 頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願2008-94430 (P2008-94430)
 (22) 出願日 平成20年4月1日 (2008.4.1)
 (65) 公開番号 特開2009-246913 (P2009-246913A)
 (43) 公開日 平成21年10月22日 (2009.10.22)
 審査請求日 平成23年3月11日 (2011.3.11)

(73) 特許権者 710014351
 オンキヨー株式会社
 大阪府寝屋川市日新町2番1号
 (74) 代理人 110001210
 特許業務法人 Y K I 国際特許事務所
 (72) 発明者 山口 享子
 大阪府寝屋川市日新町2番1号 オンキョ
 ー株式会社内
 (72) 発明者 北山 浩司
 大阪府寝屋川市日新町2番1号 オンキョ
 ー株式会社内

審査官 村山 絢子

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 コンテンツ受信装置及びコンテンツ再生装置

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

コンテンツを再生する複数のコンテンツ再生装置が接続可能であり、前記複数のコンテ
 ンツ再生装置からコンテンツを受信するコンテンツ受信装置であって、

いずれかの前記コンテンツ再生装置からのコンテンツをメインルームに配置された機器
 に出力するメインルーム出力手段と、

いずれかの前記コンテンツ再生装置からのコンテンツをサブルームに配置された機器に
 出力するサブルーム出力手段と、

前記メインルーム出力手段がメインルームに配置された機器に出力するコンテンツを再
 生するコンテンツ再生装置を選択するメインルーム選択手段と、

前記サブルーム出力手段がサブルームに配置された機器に出力するコンテンツを再生す
 るコンテンツ再生装置を選択するサブルーム選択手段と、

前記メインルーム選択手段によって選択可能な各コンテンツ再生装置に対してレジュー
 ム情報を記憶するためのメインルームレジューム記憶部と、

前記サブルーム選択手段によって選択可能な各コンテンツ再生装置に対してレジューム
 情報を記憶するためのサブルームレジューム記憶部と、

前記メインルーム選択手段がコンテンツ再生装置を変更する際に、変更前のコンテンツ
 再生装置が変更後にその再生を継続しても変更前のコンテンツ再生装置からレジューム情
 報を取得し、前記メインルームレジューム記憶部に変更前のコンテンツ再生装置に対応付
 けて前記レジューム情報を登録し、前記サブルーム選択手段がコンテンツ再生装置を変更

10

20

する際に、変更前のコンテンツ再生装置が変更後にその再生を継続しても変更前のコンテンツ再生装置からレジューム情報を取得し、前記サブルームレジューム記憶部に変更前のコンテンツ再生装置に対応付けて前記レジューム情報を登録するレジューム登録手段と、

前記メインルーム選択手段がコンテンツ再生装置を変更する際に、前記メインルームレジューム記憶部から変更後のコンテンツ再生装置に対応付けて記憶されているレジューム情報を読み出して、変更後のコンテンツ再生装置に送信し、前記サブルーム選択手段がコンテンツ再生装置を変更する際に、前記サブルームレジューム記憶部から変更後のコンテンツ再生装置に対応付けて記憶されているレジューム情報を読み出して、変更後のコンテンツ再生装置に送信する再生制御手段とを備える、コンテンツ受信装置。

【請求項 2】

前記再生制御手段が、

前記メインルーム選択手段がコンテンツ再生装置を変更する際に、変更後のコンテンツ再生装置が現在前記サブルーム選択手段が選択しているコンテンツ再生装置と同じであるか否かに関わらず、前記メインルームレジューム記憶部から変更後のコンテンツ再生装置に対応付けて記憶されているレジューム情報を読み出して、変更後のコンテンツ再生装置に送信し、

前記サブルーム選択手段がコンテンツ再生装置を変更する際に、変更後のコンテンツ再生装置が現在前記メインルーム選択手段が選択しているコンテンツ再生装置と異なる場合には、前記サブルームレジューム記憶部から変更後のコンテンツ再生装置に対応付けて記憶されているレジューム情報を読み出して、変更後のコンテンツ再生装置に送信し、変更後のコンテンツ再生装置が現在前記メインルーム選択手段が選択しているコンテンツ再生装置と同じである場合には、変更後のコンテンツ再生装置に前記レジューム情報を送信しない、請求項 1 に記載のコンテンツ受信装置。

【請求項 3】

前記再生制御手段が、

前記メインルーム選択手段がコンテンツ再生装置を変更する際に、ユーザ操作によってレジューム再生許可指示が入力されている場合、前記メインルームレジューム記憶部から変更後のコンテンツ再生装置に対応付けて記憶されているレジューム情報を読み出して、変更後のコンテンツ再生装置に送信し、ユーザ操作によってレジューム再生不可指示が入力されている場合、前記レジューム情報を変更後のコンテンツ再生装置に送信せず、

前記サブルーム選択手段がコンテンツ再生装置を変更する際に、ユーザ操作によってレジューム再生許可指示が入力されている場合、前記サブルームレジューム記憶部から変更後のコンテンツ再生装置に対応付けて記憶されているレジューム情報を読み出して、変更後のコンテンツ再生装置に送信し、ユーザ操作によってレジューム再生不可指示が入力されている場合、前記レジューム情報を変更後のコンテンツ再生装置に送信しない、請求項 1 に記載のコンテンツ受信装置。

【請求項 4】

前記メインルーム選択手段がコンテンツ再生装置を変更する際に、変更前のコンテンツ再生装置が、現在前記サブルーム選択手段が選択するコンテンツ再生装置と異なる場合には、前記コンテンツ再生装置をスタンバイ状態に制御する電源オフコマンドを送信する電源オフコマンド送信手段をさらに備える、請求項 1 に記載のコンテンツ受信装置。

【請求項 5】

前記コンテンツ受信装置がスタンバイ状態から電源オン状態に移行する際に、前記再生制御手段が、前記メインルームレジューム記憶部から前記メインルーム選択手段によって選択されているコンテンツ再生装置に対応付けて記憶されているレジューム情報を読み出して、前記コンテンツ再生装置に送信し、前記サブルームレジューム記憶部から前記サブルーム選択手段によって選択されているコンテンツ再生装置に対応付けて記憶されているレジューム情報を読み出して、前記コンテンツ再生装置に送信する、請求項 1 に記載のコンテンツ受信装置。

【請求項 6】

請求項１～５のいずれかに記載のコンテンツ受信装置に接続可能な前記コンテンツ再生装置であって、

前記レジューム登録手段からの要求に応答して、レジューム情報を前記レジューム登録手段に送信するレジューム送信手段と、

前記再生制御手段から前記レジューム情報を受信した際に、前記レジューム情報に基づいてコンテンツを再生する再生手段とを有する、コンテンツ再生装置。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【０００１】

本発明は、コンテンツ再生装置とコンテンツ受信装置とを備えるコンテンツ再生システムに関する。

【背景技術】

【０００２】

ＡＶアンプには、複数のコンテンツ再生装置（例えば、ＤＶＤプレーヤ、ＨＤＤレコーダ等）と、複数のディスプレイ装置と、複数のスピーカーとが接続可能である。例えば、図１０に示すように、メインルームＺＯＮＥ１には、ＡＶアンプ２０、ＤＶＤプレーヤ１０Ａ、ＨＤＤレコーダ１０Ｂ、ディスプレイ装置３０Ａ、スピーカー６０Ａ、リモコン受信器２４Ａが配置され、サブルームＺＯＮＥ２には、ディスプレイ装置３０Ｂ、スピーカー６０Ｂ、リモコン受信器２４Ｂが配置される。ＡＶアンプ２０には、メインルーム用およびサブルーム用のセクタ（ＤＶＤセクタ、ＨＤＤセクタ）が設けられており、メインルーム用セクタ、サブルーム用セクタをそれぞれ選択することによって、メインルームＺＯＮＥ１およびサブルームＺＯＮＥ２に映像及び音声を再生するコンテンツ再生装置を選択することができる。例えば、メインルーム用セクタはＤＶＤが選択され、サブルーム用セクタはＨＤＤが選択されている場合、メインルームＺＯＮＥ１ではＤＶＤプレーヤ１０Ａの映像及び音声が再生され、サブルームＺＯＮＥ２ではＨＤＤレコーダ１０Ｂの映像及び音声が再生される。また、メインルーム用セクタおよびサブルーム用セクタは共にＨＤＤが選択されている場合、メインルームＺＯＮＥ１及びサブルームＺＯＮＥ２では共にＨＤＤレコーダ１０Ｂの映像及び音声が再生される。

【０００３】

ここで、ＤＶＤプレーヤ１０Ａ及びＨＤＤレコーダ１０Ｂにはレジューム機能が設けられており、（あるコンテンツの）ある再生位置（再生時間）で再生を停止した場合には、その再生位置をレジューム情報としてメモリに記憶しておき、次回再生指示が入力されたときに、記憶されているレジューム情報で特定される再生位置から再生を開始することができる。しかし、上記のように、メインルームＺＯＮＥ１及びサブルームＺＯＮＥ２で同じコンテンツ再生装置の映像データ及び音声データを再生できる場合、以下のような問題が生じる。すなわち、メインルームＺＯＮＥ１のユーザ操作によってＤＶＤプレーヤ１０Ａが例えば１０：００の再生位置で再生停止した場合に、ＤＶＤプレーヤ１０Ａは再生位置１０：００をレジューム情報としてメモリに記憶する。次に、サブルームＺＯＮＥ２のユーザ操作によってＤＶＤプレーヤ１０Ａが再生されると、ＤＶＤプレーヤ１０Ａはメモリ内のレジューム情報である再生位置１０：００を消去する。そして、例えば２０：００の再生位置で再生停止した場合に、ＤＶＤプレーヤ１０Ａは、再生位置２０：００をレジューム情報として新たにメモリに記憶する。次に、メインルームＺＯＮＥ１のユーザ操作によって再度ＤＶＤプレーヤ１０Ａが再生されると、ユーザは１０：００から再生開始すると理解しているにも関わらず、レジューム情報として再生位置２０：００が記憶されているので、２０：００から再生開始されてしまい、ユーザに違和感を与えてしまう。

【０００４】

また、メインルームＺＯＮＥ１でＤＶＤセクタが選択され、ＤＶＤプレーヤ１０Ａが再生している際に、メインルームＺＯＮＥ１のセクタがＨＤＤセクタに変更されたとき、ＤＶＤプレーヤ１０Ａは再生を継続する。従って、メインルームＺＯＮＥ１のセク

10

20

30

40

50

タを再度DVDセレクトに変更した際にはHDDセレクトに変更する前に再生していた位置からDVDプレーヤ10Aに再生を再開させることができない。メインルームZONE1のセレクトがHDDセレクトに変更される際に、ユーザ操作によってDVDプレーヤ10Aの再生を停止または一次停止すればよいが、サブルームZONE2のユーザ操作によってDVDプレーヤ10Aが再生開始されてしまうと、やはり、メインルームZONE1のセレクトを再度DVDセレクトに変更した際にはHDDセレクトに変更する前に再生していた位置からDVDプレーヤ10Aに再生を再開させることができない。

【0005】

また、メインルームZONE1でDVDセレクトが選択され、DVDプレーヤ10Aが再生している際に、AVアンプ20が電源オン状態からスタンバイ状態にされたとき、DVDプレーヤ10Aは再生を継続する。従って、AVアンプ20を再度スタンバイ状態から電源オン状態にした際には、DVDプレーヤ10Aにスタンバイ状態にする前に再生していた位置から再生を再開させることができない。AVアンプ20が電源オン状態からスタンバイ状態にされたとき、ユーザ操作によってDVDプレーヤ10Aの再生を停止または一次停止すればよいが、サブルームZONE2のユーザ操作によってDVDプレーヤ10Aが再生開始されてしまうと、やはり、AVアンプ20を再度スタンバイ状態から電源オン状態にした際には、DVDプレーヤ10Aにスタンバイ状態にする前に再生していた位置から再生を再開させることができない。

【0006】

【特許文献1】特開2007-220212号公報

【特許文献2】特開2006-4489号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0007】

本発明は上記従来の課題を解決するためになされたものであり、その目的は、メインルームおよびサブルームから同一のコンテンツ再生装置のコンテンツを再生できる場合でも、適切なレジューム情報に基づいてコンテンツ再生装置を再生制御することができるコンテンツ再生システムを提供することである。

【課題を解決するための手段】

【0008】

本発明の好ましい実施形態によるコンテンツ受信装置は、コンテンツを再生する複数のコンテンツ再生装置が接続可能であり、前記複数のコンテンツ再生装置からコンテンツを受信するコンテンツ受信装置であって、いずれかの前記コンテンツ再生装置からのコンテンツをメインルームに配置された機器に出力するメインルーム出力手段と、いずれかの前記コンテンツ再生装置からのコンテンツをサブルームに配置された機器に出力するサブルーム出力手段と、前記メインルーム出力手段がメインルームに配置された機器に出力するコンテンツを再生するコンテンツ再生装置を選択するメインルーム選択手段と、前記サブルーム出力手段がサブルームに配置された機器に出力するコンテンツを再生するコンテンツ再生装置を選択するサブルーム選択手段と、前記メインルーム選択手段によって選択可能な各コンテンツ再生装置に対してレジューム情報を記憶するためのメインルームレジューム記憶部と、前記サブルーム選択手段によって選択可能な各コンテンツ再生装置に対してレジューム情報を記憶するためのサブルームレジューム記憶部と、前記メインルーム選択手段がコンテンツ再生装置を変更する際に、変更前のコンテンツ再生装置からレジューム情報を取得し、前記メインルームレジューム記憶部に変更前のコンテンツ再生装置に対応付けて前記レジューム情報を登録し、前記サブルーム選択手段がコンテンツ再生装置を変更する際に、変更前のコンテンツ再生装置からレジューム情報を取得し、前記サブルームレジューム記憶部に変更前のコンテンツ再生装置に対応付けて前記レジューム情報を登録するレジューム登録手段と、前記メインルーム選択手段がコンテンツ再生装置を変更する際に、前記メインルームレジューム記憶部から変更後のコンテンツ再生装置に対応付けて記憶されているレジューム情報を読み出して、変更後のコンテンツ再生装置に送信し、

10

20

30

40

50

前記サブルーム選択手段がコンテンツ再生装置を変更する際に、前記サブルームレジューム記憶部から変更後のコンテンツ再生装置に対応付けて記憶されているレジューム情報を読み出して、変更後のコンテンツ再生装置に送信する再生制御手段とを備える。

【0009】

従って、メインルーム選択手段及びサブルーム選択手段それぞれが選択可能なコンテンツ再生装置毎に、レジューム情報を管理しているので、メインルーム（またはサブルーム）選択手段の各コンテンツ再生装置に対して記憶したレジューム情報がサブルーム（またはメインルーム）からの同一コンテンツ再生装置のユーザ操作によって消去または変更されることを防止できる。また、メインルーム選択手段（またはサブルーム選択手段）がコンテンツ再生装置を変更する際に、前回メインルーム選択手段（またはサブルーム選択手段）が同一コンテンツ再生装置を選択していたときのレジューム情報に基づく再生位置から、コンテンツ再生装置にコンテンツ再生を再開させることができる。このように、メインルームおよびサブルームから同一のコンテンツ再生装置のコンテンツを再生できる場合でも、適切なレジューム情報に基づいてコンテンツ再生装置を再生制御することができる。

10

【0010】

好ましい実施形態においては、前記再生制御手段が、前記メインルーム選択手段がコンテンツ再生装置を変更する際に、変更後のコンテンツ再生装置が現在前記サブルーム選択手段が選択しているコンテンツ再生装置と同じであるか否かに関わらず、前記メインルームレジューム記憶部から変更後のコンテンツ再生装置に対応付けて記憶されているレジューム情報を読み出して、変更後のコンテンツ再生装置に送信し、前記サブルーム選択手段がコンテンツ再生装置を変更する際に、変更後のコンテンツ再生装置が現在前記メインルーム選択手段が選択しているコンテンツ再生装置と異なる場合には、前記サブルームレジューム記憶部から変更後のコンテンツ再生装置に対応付けて記憶されているレジューム情報を読み出して、変更後のコンテンツ再生装置に送信し、変更後のコンテンツ再生装置が現在前記メインルーム選択手段が選択しているコンテンツ再生装置と同じである場合には、変更後のコンテンツ再生装置に前記レジューム情報を送信しない。

20

【0011】

この場合、同一のコンテンツ再生装置からメインルーム及びサブルームに同時にコンテンツを出力する場合には、メインルームに対するレジューム情報に基づく再生位置を優先し、後からサブルーム選択手段が当該コンテンツ再生装置を選択しても、サブルーム選択手段に対応付けて記憶されているレジューム情報に基づいて再生位置を変更することがない。従って、メインルームのユーザがコンテンツを視聴している際に、サブルームのユーザ操作によってメインルームのユーザが視聴しているコンテンツの再生位置が変更されて、メインルームのユーザに不快感を与えることを防止できる。

30

【0012】

好ましい実施形態においては、前記再生制御手段が、前記メインルーム選択手段がコンテンツ再生装置を変更する際に、ユーザ操作によってレジューム再生許可指示が入力されている場合、前記メインルームレジューム記憶部から変更後のコンテンツ再生装置に対応付けて記憶されているレジューム情報を読み出して、変更後のコンテンツ再生装置に送信し、ユーザ操作によってレジューム再生不可指示が入力されている場合、前記レジューム情報を変更後のコンテンツ再生装置に送信せず、前記サブルーム選択手段がコンテンツ再生装置を変更する際に、ユーザ操作によってレジューム再生許可指示が入力されている場合、前記サブルームレジューム記憶部から変更後のコンテンツ再生装置に対応付けて記憶されているレジューム情報を読み出して、変更後のコンテンツ再生装置に送信し、ユーザ操作によってレジューム再生不可指示が入力されている場合、前記レジューム情報を変更後のコンテンツ再生装置に送信しない。

40

【0013】

この場合、メインルーム（またはサブルーム）選択手段が選択するコンテンツ再生装置のレジューム情報に基づく再生位置から再生させることをユーザが希望する場合のみに、

50

レジューム情報に基づいて再生開始させることができる。

【 0 0 1 4 】

好ましい実施形態においては、前記メインルーム選択手段がコンテンツ再生装置を変更する際に、変更前のコンテンツ再生装置が、現在前記サブルーム選択手段が選択するコンテンツ再生装置と異なる場合に、前記コンテンツ再生装置をスタンバイ状態に制御する電源オフコマンドを送信する電源オフコマンド送信手段をさらに備える。

【 0 0 1 5 】

この場合、メインルーム選択手段およびサブルーム選択手段のいずれも選択していないコンテンツ再生装置を自動的にスタンバイ状態にすることができるので、操作性が向上し、省電力化を図れる。

10

【 0 0 1 6 】

好ましい実施形態においては、前記コンテンツ受信装置がスタンバイ状態から電源オン状態に移行する際に、前記再生制御手段が、前記メインルームレジューム記憶部から前記メインルーム選択手段によって選択されているコンテンツ再生装置に対応付けて記憶されているレジューム情報を読み出して、前記コンテンツ再生装置に送信し、前記サブルームレジューム記憶部から前記サブルーム選択手段によって選択されているコンテンツ再生装置に対応付けて記憶されているレジューム情報を読み出して、前記コンテンツ再生装置に送信する。

【 0 0 1 7 】

この場合、コンテンツ受信装置を電源オン状態にすると、メインルーム（およびサブルーム）選択手段が選択しているコンテンツ再生装置を、記憶されているレジューム情報に基づいた再生位置から再生させることができる。

20

【 発明の効果 】

【 0 0 2 0 】

メインルームおよびサブルームから同一のコンテンツ再生装置のコンテンツを再生できる場合でも、適切なレジューム情報に基づいてコンテンツ再生装置を再生制御することができる。

【 発明を実施するための最良の形態 】

【 0 0 2 1 】

以下、本発明の好ましい実施形態によるコンテンツ再生装置（例えば、DVDプレーヤ、HDDレコーダ等）、コンテンツ受信装置（例えば、AVアンプ）を備えるコンテンツ再生システムについて、図面を参照して具体的に説明するが、本発明はこれらの実施形態には限定されない。

30

【 0 0 2 2 】

図1は、本実施形態のコンテンツ再生システムを示すブロック図である。メインルームZONE1には、AVアンプ20と、AVアンプ20に接続されたDVDプレーヤ10Aと、HDDレコーダ10Bと、ディスプレイ装置30Aと、スピーカー60Aと、リモコン受信器24Aとが配置され、サブルームZONE2には、AVアンプ20に接続されたディスプレイ装置30Bと、スピーカー60Bと、リモコン受信器24Bとが配置されている。AVアンプ20と、DVDプレーヤ10A、HDDレコーダ10B及びディスプレイ装置30A、30Bとは、例えばHDMI規格に準拠し、HDMIケーブルを介して相互に接続されている。本実施形態において、コンテンツとは、映像（画像）データおよび/または音声データの総称である。

40

【 0 0 2 3 】

[DVDプレーヤ10Aの構成]

DVDプレーヤ10Aは、再生部11と、HDMI送信部13と、システム制御部14と、操作表示部15と、メモリ16と、コネクタ部17とを有している。

【 0 0 2 4 】

再生部11は、DVDディスク（以下、単にディスクという。）に記録されている映像データ及び音声データをディスクから読み出して、HDMI送信部13に供給する。再生

50

部 1 1 は、図示しない光ピックアップ、サーボ回路、MPEGデコーダ、音声デコーダ等を含む。

【 0 0 2 5 】

HDMI送信部 1 3 は再生部 1 1 から供給された映像データおよび音声データを、システム制御部 1 4 からのコマンドにより、HDMI規格のデータ（以下、HDMIデータ）に変換する。HDMI送信部 1 3 は、HDMIデータをコネクタ部 1 7 を介してAVアンプ 2 0 に送信する。HDMI送信部 1 3 は、HDMIデータを送受信するTMD5ラインおよび接続の有無を判断するためのホットプラグを介して、AVアンプ 2 0 のHDMI受信部 2 1 に接続される。

【 0 0 2 6 】

システム制御部 1 4 は、内蔵又は接続されたメモリに格納されているDVDプレーヤの動作プログラムに基づいて、再生部 1 1、HDMI送信部 1 3、操作表示部 1 5、メモリ 1 6 等を制御するものであり、例えば、マイクロコンピュータやCPU等である。システム制御部 1 4 は、操作表示部 1 5 からの操作入力または各部からの制御信号およびデータに基づいて各種処理を実行する。

【 0 0 2 7 】

システム制御部 1 4 は、CECラインを介してAVアンプ 2 0 のシステム制御部 2 3 に接続され、システム制御部 2 3 とコマンドおよび/またはデータを送受信する。システム制御部 1 4 は、システム 2 3 からセクタ解除通知又はスタンバイ通知を受信したとき、再生部 1 1 から現在再生している再生位置の情報を取得して、再生位置（または再生時間）をレジューム情報としてAVアンプ 2 0 のシステム制御部 2 3 に送信する。また、システム制御部 1 4 は、AVアンプ 2 0 のシステム制御部 2 3 からレジューム情報を受信したとき、レジューム情報で特定される再生位置からコンテンツを再生するように再生部 1 1 を制御する。なお、DVDプレーヤがDVDチェンジャである場合には、レジューム情報にはディスクを特定するためのディスク情報が含まれているとよい。

【 0 0 2 8 】

[HDDレコーダ 1 0 B の構成]

HDDレコーダ 1 0 B の構成は、上記のDVDプレーヤ 1 0 A の構成と類似するので異なる点のみを記載する。HDDレコーダ 1 0 B は、コンテンツ記憶部であるHDD（ハードディスクドライブ）1 2 をさらに備えている。HDD 1 2 には複数のコンテンツ（映像ファイルまたは音楽ファイル）が記録されている。HDDレコーダ 1 0 B のレジューム情報は、複数のコンテンツの中から 1 つのコンテンツを特定するためのコンテンツ特定情報と、そのコンテンツの再生位置（再生時間やアドレス等）とを含む。コンテンツ特定情報は、コンテンツに対して一意に付与されるコンテンツIDでもよく、複数のメタデータ（例えばアーティスト名と曲名と）の組合せであってもよい。

【 0 0 2 9 】

[AVアンプの構成]

AVアンプ 2 0 は、HDMI受信部 2 1 と、HDMI送信部 2 2 と、システム制御部 2 3 と、リモコン受信器 2 4 A、2 4 B と、操作表示部 2 5 と、音声処理部 2 6 と、コネクタ部 2 7 a、2 7 b と、メモリ（ROM、RAM等）2 8 とを有している。

【 0 0 3 0 】

HDMI受信部 2 1 は、DVDプレーヤ 1 0 A およびHDDレコーダ 1 0 B から送信されたHDMIデータを受信して、受信したHDMIデータから元の映像データ（HDMI変換前の映像データ）を生成して、HDMI送信部 2 2 に供給する。また、HDMI受信部 2 1 は、受信したHDMIデータから元の音声データを生成して、音声処理部 2 6 に供給する。

【 0 0 3 1 】

また、HDMI受信部 2 1 は、セクタ回路としての機能を有している。本例では、セクタは、メインルームZONE 1、サブルームZONE 2 毎に、DVDセクタとHDDセクタとを有する。DVDセクタにはDVDプレーヤ 1 0 A が接続されるコネクタ

10

20

30

40

50

27aが割り当てられており、DVDセクタが選択されると、DVDプレーヤ10AからのHDMIデータに含まれるコンテンツがHDMI受信部21で処理される。同様に、HDDセクタにはHDDレコーダ10Bが接続されるコネクタ27bが割り当てられており、HDDセクタが選択されると、HDDレコーダ10BからのHDMIデータに含まれるコンテンツがHDMI受信部21で処理される。現在選択されているセクタは、図2に示すようにセクタテーブルとしてメモリ28に記憶されている。

【0032】

例えば、図2(a)に示すように、メインルーム用セクタはDVDが選択され、サブルーム用セクタはHDDが選択されている場合、HDMI受信部21は、メインルームZONE1に対してはDVDプレーヤ10Aからの映像データ及び音声データを受信し、メインルームZONE1に配置されたディスプレイ装置30A及びスピーカ60Aに出力するように動作し、サブルームZONE2に対してはHDDレコーダ10Bからの映像データ及び音声データを受信し、サブルームZONE2に配置されたディスプレイ装置30B及びスピーカ60Bに出力するように動作する。また、図2(b)に示すように、メインルーム用セクタおよびサブルーム用セクタは共にHDDが選択されている場合、メインルームZONE1及びサブルームZONE2に対して共にHDDレコーダ10Bからの映像データ及び音声データを受信し、各ルームに配置されたディスプレイ装置30A、30B、スピーカ60A、60Bに出力するように動作する(但し、この場合、図1のハードウェア構成においては、メインルームZONE1とサブルームZONE2とで再生されるコンテンツの再生位置を異ならせることができない)。

【0033】

図1に戻り、音声処理部26は、HDMI受信部21から供給された音声データをデコードし、遅延処理、イコライザ処理、D/A変換処理、音量調整処理、増幅処理等の各処理を実行し、外部に接続されたスピーカ60A、または、60Bに音声信号を供給する。音声信号をメインルームZONE1に配置されたスピーカ60Aに出力するか、サブルームZONE2に配置されたスピーカ60Bに出力するか、又は、両方のスピーカ60A、60Bに出力するかは図2のセクタテーブルを参照して特定される。

【0034】

HDMI送信部22は、HDMI受信部21から供給された映像データを、HDMIデータに変換する。HDMI送信部22は、変換したHDMIデータをディスプレイ装置30A、30Bに送信し、ディスプレイ装置30A、30Bに映像を表示させる。映像データを含むHDMIデータをメインルームZONE1に配置されたディスプレイ装置30Aに出力するか、サブルームZONE2に配置されたディスプレイ装置30Bに出力するか、又は、両方のディスプレイ装置30A、30Bに出力するかは図2のセクタテーブルを参照して特定される。

【0035】

リモコン受信器24Aは、メインルームZONE1のユーザ操作によってリモコン信号を受信し、システム制御部23にリモコン信号を供給する。リモコン受信器24Bは、サブルームZONE2のユーザ操作によってリモコン信号を受信し、システム制御部23にリモコン信号を供給する。これらのリモコン信号は、例えば、各ルーム用のセクタを変更する指示、再生開始する指示、AVアンプ20をスタンバイ状態にする指示、AVアンプ20を電源オン状態にする指示等である。操作表示部25は、メインルームZONE1のユーザ操作によって操作信号が入力され、システム制御部23に操作信号を供給するものであり、AVアンプ20のフロントパネルに設けられた操作スイッチである。この操作信号は、同様に、各ルーム用のセクタを変更する指示、再生開始する指示、AVアンプ20をスタンバイ状態にする指示、AVアンプ20を電源オン状態にする指示等である。

【0036】

システム制御部23は、内蔵又は接続されたメモリに記憶されているAVアンプの動作プログラムに基づいて、HDMI受信部21、HDMI送信部22、操作表示部25、音声処理部26、メモリ28等を制御するものであり、例えば、マイクロコンピュータやC

10

20

30

40

50

P U等である。システム制御部 2 3 は、操作表示部 2 5、リモコン受信器 2 4 A、2 4 B からの操作入力または各部からの制御信号およびデータに基づいて各種処理を実行する。システム制御部 2 3 は、C E C ラインを介して D V D プレーヤ 1 0 のシステム制御部 1 4 に接続され、システム制御部 1 4 とコマンドおよびデータを送受信する。

【 0 0 3 7 】

システム制御部 2 3 は、メインルーム Z O N E 1 またはサブルーム Z O N E 2 のセレクトアを変更する指示が入力された場合、現在選択されているセレクトア（変更前のセレクトア）に対応するコンテンツ再生装置からレジューム情報を要求して取得する。取得したレジューム情報は、メモリ 2 8 に保存される図 3 に示すレジューム情報テーブルに記憶される。

【 0 0 3 8 】

レジューム情報テーブルは、各ルームの各セレクトアに対してレジューム情報を記憶できるようにになっている。図 3 に示すように、メインルーム Z O N E 1 の D V D セレクトアには D V D プレーヤ 1 0 A のレジューム情報 R E D V D 1 が、メインルーム Z O N E 1 の H D D セレクトアには H D D レコーダ 1 0 B のレジューム情報 R E H D D 1 が、サブルーム Z O N E 2 の D V D セレクトアには D V D プレーヤ 1 0 A のレジューム情報 R E D V D 2 が、サブルーム Z O N E 2 の H D D セレクトアには H D D レコーダ 1 0 B のレジューム情報 R E H D D 2 が、それぞれ記憶される。

【 0 0 3 9 】

すなわち、メインルーム Z O N E 1 のセレクトアを（ D V D セレクトアから）H D D セレクトアに変更する指示が入力されると、システム制御部 2 3 は D V D プレーヤ 1 0 A のレジューム情報を取得して図 3 のメインルーム Z O N E 1 の D V D セレクトアのフィールドに登録する。サブルーム Z O N E 2 のセレクトアを（ H D D セレクトアから）D V D セレクトアに変更する指示が入力されると、システム制御部 2 3 は H D D レコーダ 1 0 B のレジューム情報を取得して図 3 のサブルーム Z O N E 2 の H D D セレクトアのフィールドに登録する。

【 0 0 4 0 】

システム制御部 2 3 は、メインルーム Z O N E 1 またはサブルーム Z O N E 2 のセレクトアを変更する指示が入力された場合、図 3 のレジューム情報テーブルに、変更後のセレクトアのレジューム情報が記憶されているかを確認し、記憶されている場合にはそのレジューム情報を読み出して、コンテンツ再生装置に送信する。例えば、メインルーム Z O N E 1 についてセレクトアを（ D V D セレクトアから）H D D セレクトアに変更する指示が入力されると、システム制御部 2 3 は、レジューム情報テーブルのメインルーム Z O N E 1 の H D D セレクトアのフィールドにレジューム情報が記憶されていれば、そのレジューム情報を H D D レコーダ 1 0 B に送信する。

【 0 0 4 1 】

また、サブルーム Z O N E 2 についてセレクトアを（ H D D セレクトアから）D V D セレクトアに変更する指示が入力されると、システム制御部 2 3 は、レジューム情報テーブルのサブルーム Z O N E 2 の D V D セレクトアのフィールドにレジューム情報が記憶されていれば、そのレジューム情報を D V D プレーヤ 1 0 A に送信する。

【 0 0 4 2 】

このときに、メインルーム Z O N E 1 でも D V D プレーヤ 1 0 A のコンテンツを再生しているとき、サブルーム Z O N E 2 の D V D セレクトアのフィールドに記憶されているレジューム情報を D V D プレーヤ 1 0 A に送信すると、D V D プレーヤ 1 0 A の再生位置が、送信されたサブルーム Z O N E 2 用のレジューム情報で特定される再生位置に変更される。すると、メインルーム Z O N E 1 で D V D プレーヤ 1 0 A のコンテンツを再生しているユーザに不快感を与える。そこで、一例として、メインルーム Z O N E 1 の再生位置を優先し、後からサブルーム Z O N E 2 のレジューム情報を D V D プレーヤ 1 0 A に送信する前に、メインルーム Z O N E 1 のセレクトアが同じセレクトア（ D V D セレクトア）になっている場合には、サブルーム Z O N E 2 のレジューム情報を D V D プレーヤ 1 0 A に送信しないようにすることで、この問題を解決できる。一方、後からメインルーム Z O N E 1 のレジューム情報を送信する際には、サブルーム Z O N E 2 のセレクトアに関係なく、無条件で

10

20

30

40

50

、DVDプレーヤ10Aに送信するとよい。

【0043】

以下、本実施形態のコンテンツ再生システムの動作を説明する。

[メインルームZONE1のセクタ変更処理]

図4はAVアンプ20のシステム制御部23の処理を示すフローチャート、図5はDVDプレーヤ10A又はHDDレコーダ10Bのシステム制御部14の処理を示すフローチャートである。本例では、メインルームZONE1のセクタがDVDセクタからHDDセクタに変更される場合を例に説明する。

【0044】

図4に示すように、システム制御部23はメインルームZONE1のセクタ変更指示がユーザ操作によって入力されたか否かを監視しており(S1)、DVDセクタからHDDセクタに変更する指示が入力されると(S1でYES)、システム制御部23は、現在選択されているセクタのコンテンツ再生装置(DVDプレーヤ10A)のシステム制御部14にセクタ解除通知をCECラインを介して送信する(S2)。図5に示すように、DVDプレーヤ10Aのシステム制御部14は、セクタ解除通知の受信を監視しており(S41)、セクタ解除通知を受信すると(S41でYES)、再生部11における現在のコンテンツの再生位置をレジューム情報として、AVアンプ20のシステム制御部23にCECラインを介して送信する(S42)。なお、再生部11が再生停止している場合でも、メモリに再生停止位置を記憶している場合にはその再生停止位置をレジューム情報として送信すればよい。図4に示すように、AVアンプ20のシステム制御部23は、DVDプレーヤ10Aのシステム制御部14からレジューム情報を受信すると、レジューム情報テーブルのメインルームZONE1のDVDセクタのフィールドに受信したレジューム情報を登録する(S3)。なお、既にレジューム情報が記憶されている場合は、記憶されているレジューム情報を消去して、今回取得したレジューム情報を登録する(上書きする)。

【0045】

続いて、システム制御部23は、現在選択されているセクタ(DVDセクタ)は、サブルームZONE2でも選択されているか否かを図2のセクタテーブルを参照して判断する(S4)。すなわち、現在、メインルームZONE1とサブルームZONE2とで同じコンテンツ再生装置のコンテンツを再生しているか否かが判断される。サブルームZONE2のセクタがメインルームZONE1と同じくDVDセクタである場合(S4でYES)、S6に進む。一方、サブルームZONE2のセクタがメインルームZONE1と異なりHDDセクタである場合(S4でNO)、DVDプレーヤ10AからのコンテンツはメインルームZONE1にもサブルームZONE2にも出力されないことになるので、システム制御部23は、CECラインを介してDVDプレーヤ10Aのシステム制御部14に電源オフコマンドを送信する(S5)。図5に示すように、DVDプレーヤ10Aのシステム制御部14は、電源オフコマンドの受信を監視しており(S50)、電源オフコマンドを受信すると(S50でYES)、スタンバイ状態であることをAVアンプ20のシステム制御部23に通知した後、電源オン状態からスタンバイ状態になる(S51)。AVアンプ20のシステム制御部23は、DVDプレーヤ10A、HDDレコーダ10Bが電源オン状態であるか、スタンバイ状態であるかをメモリ上で管理している。

【0046】

ここで、AVアンプ20およびコンテンツ再生装置10は、装置全体に電源電圧を供給する主電源回路と、システム制御部及びその周辺回路のみに電源電圧を供給するスタンバイ電源回路とを備えており、電源オン状態においては主電源回路及びスタンバイ電源回路が共にオン状態にされ、スタンバイ状態においては主電源回路がオフ状態、スタンバイ電源回路がオン状態にされている。電源オン状態では、コンテンツの再生、コンテンツの送受信およびその他の処理を実行することができる。スタンバイ状態では、コンテンツの再生、コンテンツの送受信およびその他の処理を実行することはできないが、リモコン信号や電源オンコマンド等によって電源オン状態に移行することができる。

【 0 0 4 7 】

図 4 に示すように、A V アンプ 2 0 のシステム制御部 2 3 は、メインルーム Z O N E 1 のセレクトを D V D セレクトから H D D セレクトに変更する (S 6)。すなわち、システム制御部 2 3 は、メインルーム Z O N E 1 に出力するコンテンツとして H D D レコーダ 1 0 B からの H D M I データを選択するように H D M I 受信部 2 1 を制御する。また、システム制御部 2 3 は、図 2 のセレクトテーブルのメインルーム Z O N E 1 のフィールドを、変更後のセレクトである H D D セレクトに書き換える。

【 0 0 4 8 】

続いて、システム制御部 2 3 は、変更後のセレクトのコンテンツ再生装置 (H D D レコーダ 1 0 B) が電源オン状態であるか否かを判断する (S 7)。H D D レコーダ 1 0 B が電源オン状態である場合には (S 7 で Y E S)、S 9 に進む。一方、H D D レコーダ 1 0 B がスタンバイ状態である場合には (S 7 で N O)、システム制御部 2 3 は、C E C ラインを介して H D D レコーダ 1 0 B のシステム制御部 1 4 b に電源オンコマンドを送信する (S 8)。図 5 に示すように、H D D レコーダ 1 0 B のシステム制御部 1 4 b は、電源オンコマンドを受信したか否かを監視しており (S 4 3)、電源オンコマンドを受信すると (S 4 3 で Y E S)、スタンバイ状態から電源オン状態に移行する (S 4 4)。

【 0 0 4 9 】

続いて、システム制御部 2 3 は、変更後のセレクトのコンテンツ再生装置 (H D D レコーダ 1 0 B) について、ユーザ操作によって再生指示が入力されたか否かを監視しており (S 9)、再生指示が入力された場合 (S 9 で Y E S)、システム制御部 2 3 は、H D D レコーダ 1 0 B のシステム制御部 1 4 b に再生コマンドを送信する (S 1 0)。さらに、システム制御部 2 3 は、変更後のセレクトのコンテンツ再生装置 (H D D レコーダ 1 0 B) についてレジューム情報が記憶されているかを判断する (S 1 1)。つまり、システム制御部 2 3 は、レジューム情報テーブルのメインルーム Z O N E 1 の H D D セレクトのフィールドにレジューム情報が記憶されているかを判断する。当該レジューム情報がレジューム情報テーブルに記憶されている場合 (S 1 1 で Y E S)、システム制御部 1 4 は、レジューム情報テーブルから当該レジューム情報を読み出して、C E C ラインを介して、H D D レコーダ 1 0 B のシステム制御部 1 4 b に送信する (S 1 2)。

【 0 0 5 0 】

図 5 に示すように、H D D レコーダ 1 0 B のシステム制御部 1 4 b は、再生コマンドの受信を監視しており (S 4 5)、再生コマンドを受信すると (S 4 5 で Y E S)、レジューム情報をシステム制御部 2 3 から受信したかを判断する (S 4 6)。レジューム情報を受信した場合 (S 4 6 で Y E S)、システム制御部 1 4 b はレジューム情報に含まれている再生位置からコンテンツを再生開始する。詳細には、例えばレジューム情報にはコンテンツを特定するコンテンツ I D と再生開始位置 (再生時間、再生開始アドレス) が含まれているので、再生部 1 1 b は、コンテンツ I D で特定されるコンテンツの再生開始位置で特定される位置から再生開始する。

【 0 0 5 1 】

[サブルーム Z O N E 2 のセレクト変更処理]

図 6 は、A V アンプ 2 0 のシステム制御部 2 3 による、サブルーム Z O N E 2 のセレクト変更処理を示すフローチャートである。なお、サブルーム Z O N E 2 のセレクト変更処理は、図 4 で説明したメインルーム Z O N E 1 のセレクト変更処理と略同じであり、図 4 に記載の「メインルーム」と「サブルーム」という用語を入れ替えたものである。なお、サブルーム Z O N E 2 のセレクトが D V D セレクトから H D D セレクトに変更され、S 3 1 で、レジューム情報テーブルのサブルーム Z O N E 2 の H D D セレクトのフィールドにレジューム情報が記憶されていると判断されると (S 3 1 で Y E S)、システム制御部 2 3 は、変更後のセレクト (H D D セレクト) は、現在のメインルーム Z O N E 1 のセレクトと同じであるか否かを、セレクトテーブルを参照して判断する (S 3 2)。変更後のサブルーム Z O N E 2 のセレクト (H D D セレクト) が現在のメインルーム Z O N E 1 のセレクトと同じである場合 (S 3 2 で Y E S)、システム制御部 2 3 は H D D レコーダ 1 0

Bのシステム制御部14bにレジューム情報を送信しない。図5に示すように、HDDレコーダ10Bのシステム制御部14bは、例えば所定時間以内にレジューム情報を受信しない場合(S46でNO)、現在コンテンツを再生中(つまり、メインルームZONE1に対してコンテンツを再生中)であるか否かを判断する(S48)。再生中であれば(S48でYES)、そのままの再生位置で再生を継続するので、メインルームZONE1のユーザに不快感を与えることはない。再生中でなければ(S48でNO)、例えばユーザ操作によって新たに指定されたコンテンツの再生位置から再生開始する、又は、最初のコンテンツの最初の位置から再生を開始する(S49)。最初のコンテンツとは、例えば、プレイリスト内の最初のコンテンツ、又は、記録されている全コンテンツのうち最初のコンテンツIDで特定されるコンテンツ等である。

10

【0052】

以上のように、本実施形態によると、各ルームの各セレクトタに対応付けてレジューム情報を記憶しているので、各ルーム毎にセレクトタが変更されたときにレジューム情報で特定される再生位置からコンテンツを再生することができる。なお、S9の処理を省略して、自動的に再生コマンドを送信するようにしてもよい。

【0053】

[別の実施形態1]

次に、本発明の別の好ましい実施形態を説明する。図7は本例におけるAVアンプ20のメインルームZONE1のセレクトタ変更処理を示すフローチャートであり、図4と同一処理には同一符号を付ける。図8は本例におけるAVアンプ20のサブルームZONE2

20

【0054】

本例では、図7に示すように、S11でメインルームZONE1について、変更後のセレクトタに対応するレジューム情報がレジューム情報テーブルに記憶されていると判断されると(S11でYES)、システム制御部23は、メインルームZONE1についてユーザ操作によってレジューム再生許可指示が入力されているか否かを判断する(S13)。例えば、メインルームZONE1に配置されたディスプレイ装置に30Aに「レジューム再生しますか」という質問を表示し、レジューム再生を許可するか否かをユーザ操作によって入力させてもよく、事前にユーザ操作によってレジューム再生の許可/不可がメニュー画面等から設定可能であってもよい。

30

【0055】

レジューム再生許可指示が入力されている場合(S13でYES)、システム制御部23は、変更後のセレクトタに対応するレジューム情報を読み出して、変更後のセレクトタのコンテンツ再生装置のシステム制御部に送信する(S12)。一方、レジューム再生不可指示が入力されている場合(S13でNO)、システム制御部23は、変更後のセレクトタに対応するレジューム情報をコンテンツ再生装置に送信しない。

【0056】

同様に、図8に示すように、S31でサブルームZONE2について、変更後のセレクトタに対応するレジューム情報がレジューム情報テーブルに記憶されていると判断されると(S31でYES)、システム制御部23は、サブルームZONE2についてユーザ操作によってレジューム再生許可指示が入力されているか否かを判断する(S34)。レジューム再生許可指示が入力されている場合(S34でYES)、システム制御部23は、変更後のセレクトタに対応するレジューム情報を読み出して、変更後のセレクトタのコンテンツ再生装置のシステム制御部に送信する(S33)。一方、レジューム再生不可指示が入力されている場合(S34でNO)、システム制御部23は、変更後のセレクトタに対応するレジューム情報をコンテンツ再生装置に送信しない。

40

【0057】

[別の実施形態2]

次に、本発明のさらに別の好ましい実施形態を説明する。本例では、図7及び図8のよ

50

うにAVアンプ20側でユーザ操作によってレジューム再生許可指示/レジューム再生不可指示が入力されるのではなく、コンテンツ再生装置側でユーザ操作によってレジューム再生許可指示/レジューム再生不可指示が入力される。例えば、AVアンプ20のメインルームZONE1のセクタ変更処理は図4と同じであり、AVアンプ20のサブルームZONE2のセクタ変更処理は図8においてS34が省略されたものとなる。すなわち、AVアンプ20はレジューム情報が記憶されている限り無条件でコンテンツ再生装置にレジューム情報を送信する。コンテンツ再生装置の処理は、図5においてS46でYESと判断された後に、ユーザ操作によってレジューム再生許可指示が入力されているか否かを判断する。レジューム再生許可指示が入力されている場合、S47に進み、レジューム情報に基づいて再生するが、レジューム再生不可指示が入力されている場合、S48に進み、レジューム情報に基づいて再生しない。

10

【0058】

[別の実施形態3]

次に、本発明のさらに別の好ましい実施形態を説明する。図9は、AVアンプ20がスタンバイ状態から電源オン状態に移行する際のレジューム再生処理を示すフローチャートである。

【0059】

システム制御部23は、主電源回路をオフ状態に制御して、AVアンプ20を電源オン状態からスタンバイ状態に移行させる際に(S61でYES)、現在、メインルームZONE1のセクタに選択されているコンテンツ再生装置、及び、サブルームZONE2のセクタに選択されているコンテンツ再生装置に、AVアンプ20がスタンバイ状態に移行することを示すスタンバイ通知を送信する(S62)。例えば、メインルームZONE1のセクタがDVDセクタであれば、システム制御部23はDVDプレーヤ10Aのシステム制御部14にスタンバイ通知を送信する。サブルームZONE2のセクタがHDDセクタであれば、システム制御部23はHDDレコーダ10Bのシステム制御部14bにスタンバイ通知を送信する。図5において、S41を「スタンバイ通知受信」に読み替えて、スタンバイ通知を受信したコンテンツ再生装置のシステム制御部14は、スタンバイ通知に回答して現在の再生位置をレジューム情報としてAVアンプ20のシステム制御部23に送信する(S42)。システム制御部23は、レジューム情報を受信すると、メインルームZONE1、サブルームZONE2の現在の各セクタに対応付けてレジューム情報をレジューム情報テーブルに登録する(S63)。つまり、レジューム情報テーブルにおいて、メインルームZONE1のDVDセクタ10AのフィールドにDVDプレーヤ10Aのレジューム情報を登録し、サブルームZONE2のHDDセクタ10BのフィールドにHDDレコーダ10Bのレジューム情報を登録する。その後、システム制御部23は、電源オン状態からスタンバイ状態に移行させる。

20

30

【0060】

一方、システム制御部23は、主電源回路をオン状態に制御して、AVアンプ20を電源オン状態に移行するとき(S64でYES)、メインルームZONE1の選択されているセクタに対応付けて、レジューム情報がレジューム情報テーブルに記憶されているか否かを判断する(S65)。例えば、メインルームZONE1のセクタがDVDセクタであれば、メインルームZONE1のDVDセクタのレジューム情報が記憶されているかを判断する。レジューム情報が記憶されている場合(S65でYES)、システム制御部23は、メインルームZONE1の選択されているセクタのコンテンツ再生装置(DVDプレーヤ10A)に、レジューム情報テーブルからレジューム情報を読み出して送信する(S66)。レジューム情報が記憶されていない場合(S65でNO)、メインルームZONE1の選択されているセクタのコンテンツ再生装置にレジューム情報を送信せずにS67に進む。

40

【0061】

続いて、システム制御部23はサブルームZONE2設定がオン状態になっているか否かを判断する(S67)。サブルームZONE2設定とは、AVアンプ20がサブルーム

50

Z O N E 2 にコンテンツを出力するか否かをユーザ操作によって事前に設定する機能である。サブルーム Z O N E 2 設定のオンオフは例えばメモリ内のフラグ等によって管理されている。

【 0 0 6 2 】

サブルーム Z O N E 2 設定がオフ状態であれば処理を終了するが、サブルーム Z O N E 2 設定がオン状態である場合 (S 6 7 で Y E S)、システム制御部 2 3 は、サブルーム Z O N E 2 の選択されているセクタに対応付けて、レジューム情報がレジューム情報テーブルに記憶されているか否かを判断する (S 6 8)。サブルーム Z O N E 2 のセクタが H D D である場合には、サブルーム Z O N E 2 の H D D セクタのレジューム情報が記憶されているかを判断する。レジューム情報が記憶されていなければ処理を終了するが、レ
10
ジューム情報が記憶されている場合 (S 6 8 で Y E S)、例えば、システム制御部 2 3 は、サブルーム Z O N E 2 のセクタが、メインルーム Z O N E 1 のセクタと同じであるか否かを判断する (S 6 9)。同じであればメインルーム Z O N E 1 のレジューム情報を優先するために処理を終了する。一方、同じでない場合 (S 6 9 で N O)、サブルーム Z O N E 2 の選択されているセクタのコンテンツ再生装置に、レジューム情報テーブルからレジューム情報を読み出して送信する (S 7 0)。

【 0 0 6 3 】

以上の処理によって、A V アンプが電源オン状態に移行する際にも、スタンバイ状態に移行する際に記憶したレジューム情報に基づいてコンテンツ再生装置を再生させることができる。なお、S 6 4 ~ S 7 0 の電源オン時のレジューム再生処理を、図 4 ~ 図 8 で示したセクタ変更時にレジューム情報テーブルに記憶したレジューム情報に基づいて実行した
20
のも良い。

【 0 0 6 4 】

以上、本発明の好ましい実施形態を説明したが、本発明はこれらの実施形態には限定されない。例えば、再生部 1 1 は 2 つの光ピックアップを備える等ハードウェア構成を変更することにより、同時に同一のコンテンツ再生装置のコンテンツをメインルーム Z O N E 1 及びサブルーム Z O N E 2 に出力する場合でも、メインルーム Z O N E 1 に対する再生開始位置と、サブルーム Z O N E 2 に対する再生開始位置とを異ならせることができる。この場合には、上記実施形態のようにメインルーム Z O N E 1 のレジューム情報を優先することや、ユーザ操作によってレジューム再生許可指示 / レジューム再生不可指示の入力を判断することが不要となる。また、サブルームは、1 つに限られず複数のサブルーム Z O N E 3、Z O N E 4 にも適用可能である。また、A V アンプに送信されるコンテンツは、H D M I ケーブルを介して送信されるのではなく、光デジタルケーブル等で送信されてもよい。この場合、別途他の通信ケーブルを介して各コマンドが送信されるとよい。また、A V アンプおよびコンテンツ再生装置の上記動作をコンピュータに実行させるためのプログラムおよびこれを記録した記録媒体という形態で提供されてもよい。また、A V アンプの上記動作の一部のみのプログラムを、A V アンプにファームウェアアップデートという形態で提供されてもよい。さらには、A V アンプの上記動作の一部のみのプログラムが格納された C P U、マイコンなどの電子部品という形態で提供されてもよい。

【産業上の利用可能性】

【 0 0 6 5 】

本発明は、A V アンプおよび D V D プレーヤ等に好適に採用され得る。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 6 6 】

【図 1】本発明の好ましい実施形態によるコンテンツ再生システムを示すブロック図である。

【図 2】セクタテーブルを示す図である。

【図 3】レジューム情報テーブルを示す図である。

【図 4】メインルームのセクタを変更する際の A V アンプの処理を示すフローチャートである。

10

20

30

40

50

【図 5】セレクトタを変更する際のコンテンツ再生装置の処理を示すフローチャートである。

【図 6】サブルームのセレクトタを変更する際の A V アンプの処理を示すフローチャートである。

【図 7】メインルームのセレクトタを変更する際の A V アンプの処理を示すフローチャートである。

【図 8】サブルームのセレクトタを変更する際の A V アンプの処理を示すフローチャートである。

【図 9】A V アンプを電源オン状態またはスタンバイ状態にする際の処理を示すフローチャートである。

【図 10】従来のコンテンツ再生システムを示すブロック図である。

【符号の説明】

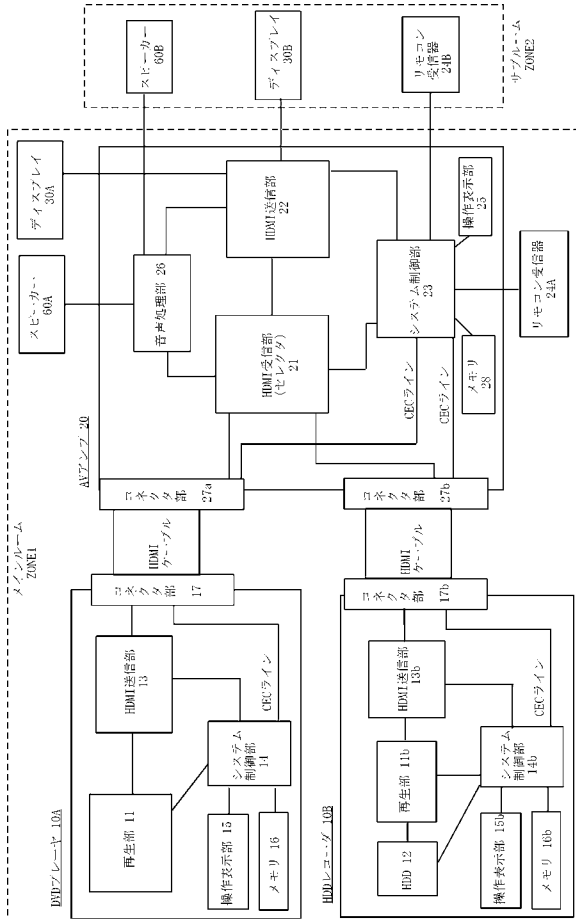
【 0 0 6 7 】

- | | |
|---------------|-------------|
| 1 0 A | D V D プレーヤ |
| 1 0 B | H D D レコーダ |
| 2 0 | A V アンプ |
| 2 1 | H D M I 受信部 |
| 2 2 | H D M I 送信部 |
| 2 3 | システム制御部 |
| 2 6 | 音声処理部 |
| 3 0 A , 3 0 B | ディスプレイ装置 |

10

20

【図 1】



【図 2】

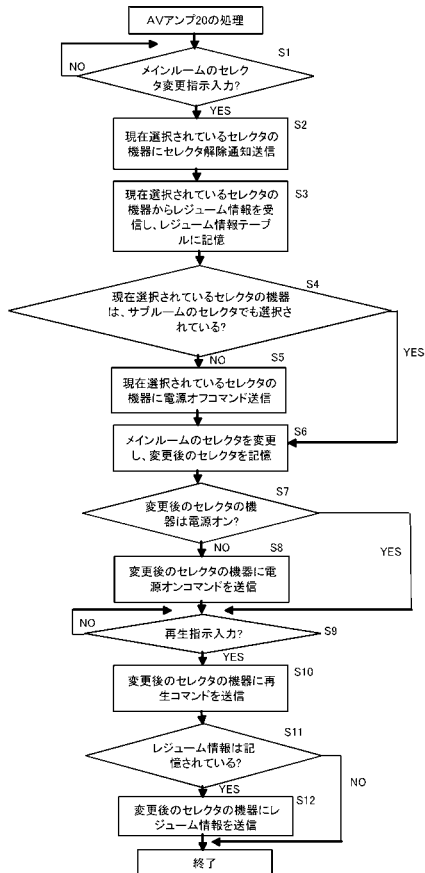
(a)	
ルーム	セレクトタ
ZONE1	DVD
ZONE2	HDD

(b)	
ルーム	セレクトタ
ZONE1	HDD
ZONE2	HDD

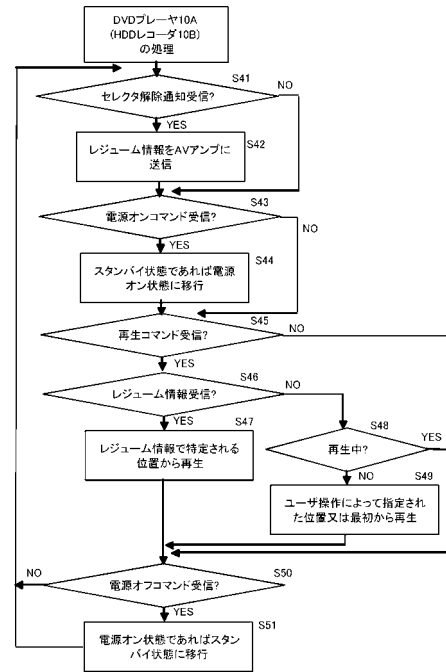
【図 3】

		セレクトタ	
		DVD	HDD
ルーム	ZONE1	REDVD1	REHDD1
	ZONE2	REDVD2	REHDD2

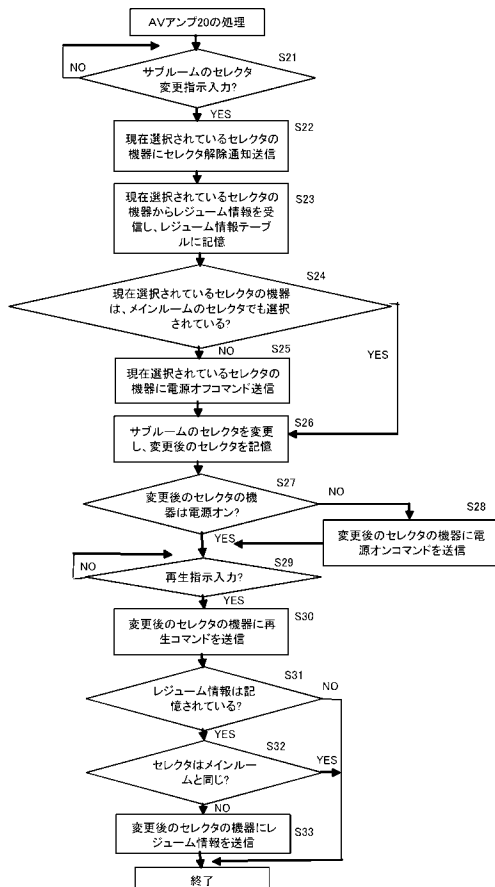
【図 4】



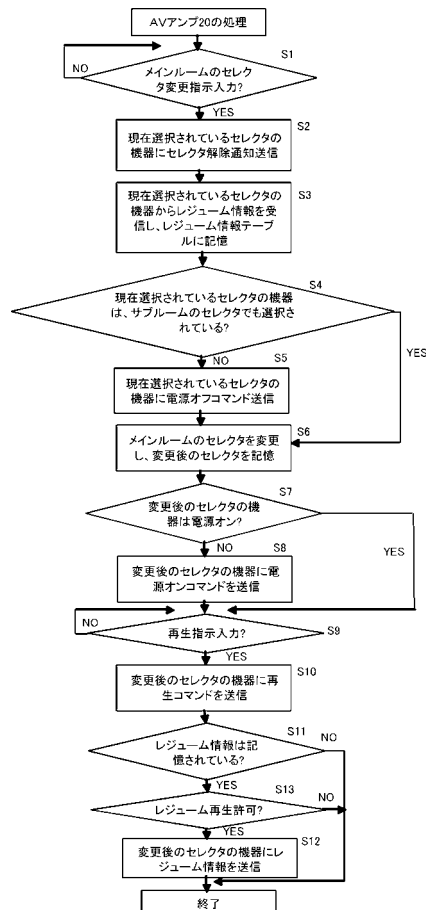
【図 5】



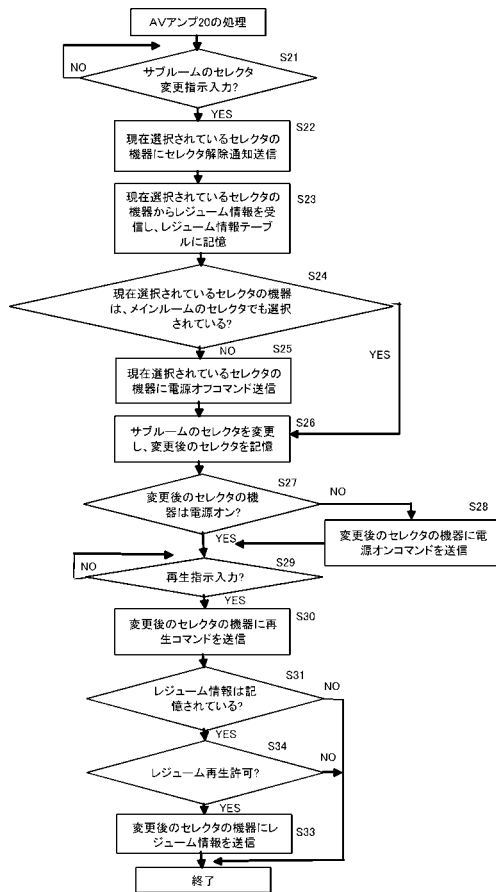
【図 6】



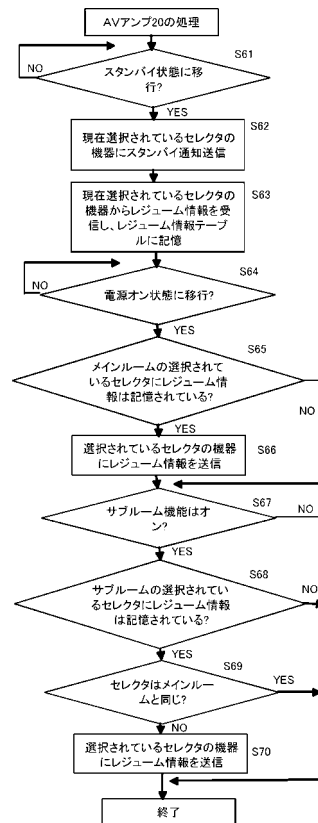
【図 7】



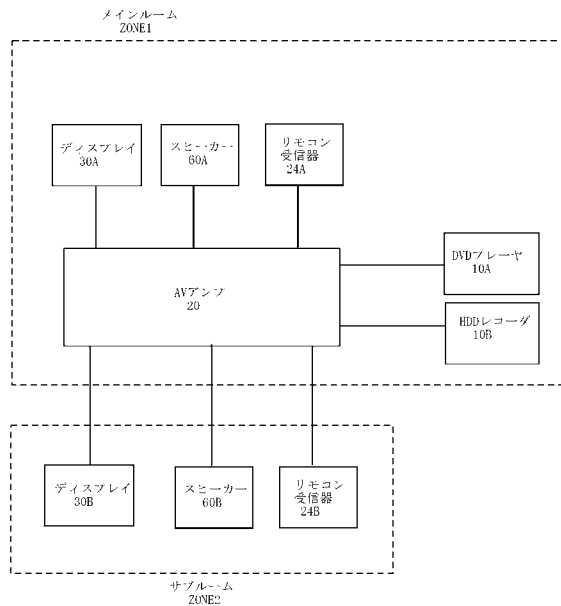
【図 8】



【図 9】



【図 10】



フロントページの続き

(51)Int.Cl. F I
G 1 1 B 31/00 (2006.01) G 1 1 B 31/00 5 1 9 Z
H 0 4 N 21/433 (2011.01) G 1 1 B 31/00 Z
H 0 4 N 21/433

(56)参考文献 特開 2 0 0 6 - 1 0 9 3 2 9 (J P , A)
特開 2 0 0 6 - 2 1 7 1 1 6 (J P , A)
特開 2 0 0 2 - 1 9 7 7 7 5 (J P , A)

(58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)
H 0 4 N 5 / 7 6 - 5 / 9 5 6
G 1 1 B 2 0 / 1 0 - 2 0 / 1 6
G 1 1 B 2 7 / 0 0 - 2 7 / 0 6
G 1 1 B 2 7 / 1 0 - 2 7 / 3 4
G 1 1 B 3 1 / 0 0
H 0 4 N 2 1 / 0 0 - 2 1 / 8 5 8